

隧道改修記念碑



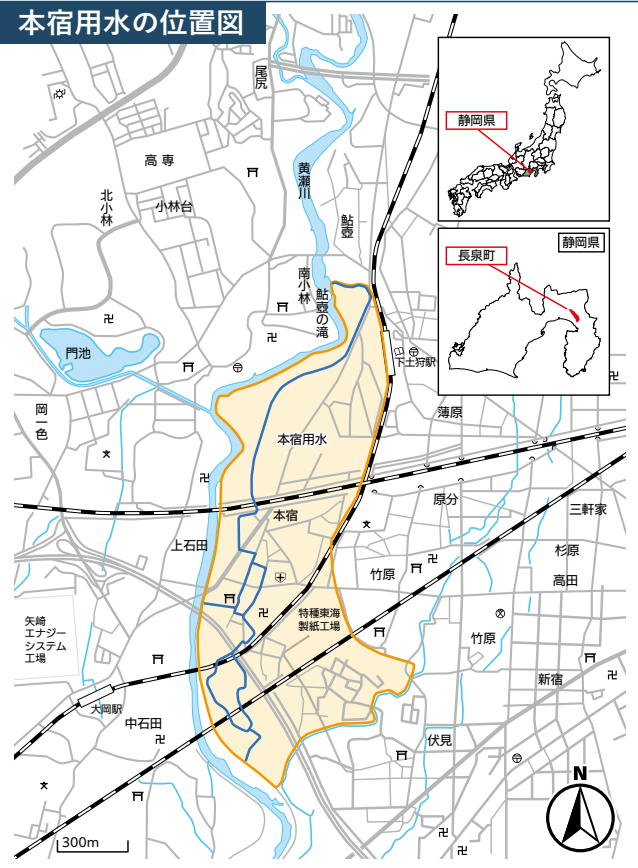
新井堰・黄瀬川取水口



世界かんがい施設遺産
World Heritage Irrigation Structure in Japan

本宿用水

本宿用水の位置図



本宿用水下流部



長泉町

本宿用水の概略

— 420年前、**暴れ川に堰を造り人力で地盤を貫き^{ついで}隧道と水路を造った日本の水利掘削技術の手本** —

本宿用水は、黄瀬川にある鮎壺の滝の上部に設置した新井堰から取水し、延長約500mの隧道と約2kmの水路で造られたかんがい施設です。当時の本宿村は黄瀬川の川底が深く、降水時には暴れ川となり、川水を取水することが技術的に難しく、16世紀までは稲作ができない貧困地帯でした。

そこで、本宿村では1601年、徳川家康から任命をされた、領主・興国寺城主の天野三郎兵衛康景に、隧道掘削の許可を下さるよう嘆願し、当時最先端の水利土木技術である「甲州流水利法」を駆使して、1603年に本宿用水が完成しました。本宿用水の隧道通水の水利技術や鉄のノミを使用した人力による掘削技術、行燈を使う測量技術などは67年後に造られた裾野市の「深良用水（2014年世界かんがい施設遺産登録）」建設時の「手本」として活かされており、日本における「取水技術・通水技術・排水技術」の先進的な技術が結集した「規範」と評価できる優れたかんがい施設です。

本宿用水は完成から420年経過した今でも、本宿共有財産管理委員会や本宿部農会を中心に、区民と連携・協働により、適正に維持管理されており、本宿地域の水田地帯に安定的にかんがい用水として、また防火用水や生活用水など地域に不可欠な社会基盤として活用されています。

隧道の過去と現在



建設当時の素掘り隧道



現在

本宿用水関連略年表

慶長5年(1600)	徳川家康関ヶ原の戦いで勝利、天野康景興国寺城主（本宿村領主）
慶長7年(1602)	牧堰用水竣工
慶長8年(1603)	本宿用水竣工、天野康景の手形拝領、江戸幕府誕生
慶長12年(1607)	天野康景出奔し改易
慶長14年(1609)	慶長の検地での本宿村水田面積(734畝)
元和5年(1619)	本宿諏訪神社を新田開発のため現在地に遷宮
寛文2年(1662)	野村代官宛訴訟文に本宿用水設置の経緯が記載
寛文9年(1669)	下原堰竣工
寛文10年(1670)	箱根用水竣工、本宿村箱根用水組合に加盟
延宝2年(1674)	延宝検地で本宿村水田面積(1,248畝)
元禄17年(1704)	黄瀬川増水で隧道破損
宝永4年(1707)	本宿村箱根用水組合を脱退
宝永5年(1708)	富士山噴火の地震で隧道大破
享保4年(1719)	本宿村と牧堰15か村との水論に江戸奉行所から採決
享保15年(1730)	本宿村干ばつで飢え人続出（領主へ支援を願い出る）
享保19年(1734)	黄瀬川増水で隧道破損
元文4年(1739)	本宿村干ばつで飢え人続出（領主へ救済を願い出る）
宝暦元年(1751)	本宿村と下土狩村蛇面田をめぐる水論が勃発
安政元年(1854)	大地震で隧道大破、小僧池(窪)から湧水発生⇒小僧池から本宿用水へ接続
明治8年(1875)	本宿村干ばつによる不作米(84表1斗)
大正7年(1918)	誘致した高野製紙所（特種製紙の前身）に小僧池用水の水利権を渡す
大正12年(1923)	関東大震災で隧道大破
平成2年(1990)	本宿用水隧道改修（第1期）
平成10年(1998)	本宿用水隧道改修（第2期）
令和5年(2023)	本宿用水が世界かんがい施設遺産に登録